



岡山県糖尿病医療連携シンポジウム

これからの糖尿病医療

（連携と深化）

開催日時

2015年
11月1日 [SUN]
13:00～16:20

会場

ホテルグランヴィア岡山
4F フェニックス
岡山市北区駅元町1-5
TEL. 086-234-7000

対象

医師、メディカルスタッフ

主催：公益社団法人 岡山県医師会、岡山県生活習慣病対策推進会議糖尿病対策専門部会

共催：岡山県、岡山県糖尿病協会、岡山大学病院糖尿病センター

後援：岡山市、公益社団法人 岡山県看護協会、公益社団法人 岡山県栄養士会、一般社団法人 岡山県薬剤師会、岡山県病院薬剤師会、一般社団法人 岡山県歯科医師会

●日医生涯教育制度3単位カリキュラムコード：2. 継続的な学習と臨床能力の保持、9. 医療情報、10. チーム医療、73. 慢性疾患・複合疾患の管理、76. 糖尿病、82. 生活習慣
●日本糖尿病協会療養指導医取得のための講習会 ●日本糖尿病療養指導士(CDEJ2群) 1単位取得可

減少に転じたとはいえ、本邦で糖尿病は予備軍を含め2,050万人もあり、CKD(慢性腎臓病)と共に国民病であり続けています。まず、本日の特別講演では～治す治療への第一歩～と、心強い演題でお話をお聞かせいただきます。私は内科医ではありませんので予防、予防と叫ぶだけで、いざ糖尿病に罹患すると運動や食事療法により進行を抑えることが限界と考えておりました。今後、治す治療がどんどん進歩してくれることを期待しております。基調講演では専門医と他職種による医療連携なしでは、夥しい数の糖尿病患者さんに対処できない昨今、その現状と課題を掘り下げていただき、その後、県内の医療連携実践エキスパートの医師並びに看護師さんにそれぞれの取組みを紹介いただきます。

本日で参加の皆様方は、濃い内容の研修成果を修得されまして、周りの方々を含め糖尿病の予防・治療に更に邁進していただくようお願いいたします。最後に日頃から弛まぬ努力続けておられます岡山県糖尿病医療連携体制検討会議、岡山大学病院が主管している岡山県生活習慣病対策推進会議、岡山県医師会が所轄する糖尿病対策推進協議会のメンバーの方々に謝意を表し、挨拶とさせていただきます。

岡山県医師会 会長
石川 紘

現在、岡山県では、晴れの国おかやま活き生きプランの中で、健康寿命の延伸を掲げ、県民が元気に地域で暮らせるよう、幅広い関係機関・団体と協働し、心と体の健康づくりに向けた普及啓発や環境整備を進めているところです。また、地域で切れ目のない医療の提供を実現し、良質かつ適切な医療を効率的に提供するため、「岡山県糖尿病医療連携体制検討会議」を平成20年度から設置し、県医師会等との連携のもと円滑な医療連携体制の構築を進めてきました。さらに、平成24年度からは、「糖尿病等生活習慣病医療連携推進事業」を岡山大学病院に委託し、医療従事者の技能向上や県民への普及啓発等の様々な取組を展開してきたところです。

本日は東京大学大学院の植木先生や東京内科医会の菅原先生をはじめ、日々糖尿病医療連携に御尽力をいただいております多くの先生方にお越しいただいており、幅広い知識や経験を踏まえた示唆に富んだ御講演を賜ることとしております。このシンポジウムへの出席を快諾いただきました講演者の方々に厚く御礼を申し上げますとともに、お集まりいただきました皆様方にとって意義深いものとなることを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

岡山県保健福祉部健康推進課 課長
兼信 定夫



岡山県医師会
会長
石川 紘



岡山県医師会
副会長
糸島 達也



岡山県医師会
理事
田中 茂人



岡山県保健福祉部健康推進課
課長
兼信 定夫



心臓病センター榊原病院
院長
岡崎 悟



金光病院
院長
難波 義夫



倉敷中央病院
糖尿病内科 主任部長
松岡 孝



岡山医療センター
糖尿病・代謝内科 医長
肥田 和之

糖尿病治療の課題と展望 ～治す治療への第一歩～

講師 植木 浩二郎

東京大学大学院医学系研究科
分子糖尿病科学講座 特任教授



略歴

昭和62年	東京大学医学部医学科 卒業
平成1年	東京大学医学部第三内科 入局
平成9年～平成13年	Harvard大学Joslin Diabetes Centerポスドクトラルフェロー
平成13年～平成15年	同Instructor
平成16年～平成19年	東京大学大学院医学系研究科 21世紀COEプログラム特任助教授
平成19年～平成26年	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科准教授
平成23年～平成26年	東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 診療科長(兼任)
平成26年～	現職および国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター長(兼任)、 日本糖尿病学会常務理事

現在の糖尿病治療の目標は、合併症を抑制して健康な人と変わらないQOLや寿命を確保することである。細小血管合併症については、その方法に拘わらず血糖値を低下させることによって発症を抑制できると考えられている。一方、大血管合併症については、血糖のみならず血圧や脂質などにも統合的に介入することが抑制に重要であると言われている。このような治療が行われる様になった結果、糖尿病患者の合併症発症率は年々低下しているが、まだ十分とは言えない。実際、合併症の発症数は増加しているが、これは日本人が高齢化した結果として糖尿病患者が増加していることや、糖尿病患者の寿命が延伸し長寿になってきたために動脈硬化性疾患に罹患する機会が増加していることも関与している。

本講演では、現時点で推奨される糖尿病治療や、我が国が超高齢社会になっていくことも考慮した肥満のみならずサルコペニアなどを予防・克服することによる糖尿病の効率的な予防や治療を目指した研究について紹介する。

MEMO

糖尿病医療連携の現状と課題

講師 菅原 正弘

東京内科医会 会長
菅原医院 院長

略歴

昭和55年 順天堂大学医学部 卒業、順天堂大学医学部付属病院研修医

昭和57年 順天堂大学医学部 内科学講座 入局

昭和61年 助手

平成4年 講師

平成5年 現職

平成15年 日本臨床内科医会常任理事

平成18年 東京都糖尿病協会会長、日本糖尿病協会理事、第20回日本臨床内科医学会実行委員長

平成20年 第48回日本糖尿病協会総会・年次集会会長

平成22年 日本糖尿病療養指導士認定機構理事

平成24年 東京内科医会会長

平成25年 第30回日本臨床内科医会総会会長

平成28年 第30回日本臨床内科医学会会長

《受賞》平成13年 日本臨床内科医学会長賞

平成16年 東京医師会グループ研究賞(練馬区医師会糖尿病治療研究会 代表)

平成21年 東京内科医会川上記念賞

《現在の委員》 日本糖尿病対策推進会議 ワーキンググループ委員、東京都糖尿病対策推進会議幹事、東京都糖尿病医療連携協議会委員、東京都医師会生活習慣病対策委員会委員長、東京都医師会健康食品の安全性検討会委員長、東京都糖尿病協会顧問

《専門医など》 医学博士、日本内科学会評議員、日本糖尿病学会専門医・評議員 日本リウマチ学会専門医・評議員、日本消化器内視鏡学会専門医、日本臨床内科医会専門医

《著書》「40歳からの糖尿病との上手なつきあい方」(中経文庫)、「高脂血症」(講談社)、「よくわかるメタボリックシンドローム脱出法」(講談社)他、共著: Medical Walking(南山堂)、「かかりつけ医の糖尿病Q&A」(南山堂)他



糖尿病専門医との連携は、血糖コントロール不良、インスリン導入、ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群、教育入院などで行われている。眼科には、初診時に紹介する必要がある。既に進行した網膜症を合併していると血糖コントロールを緩徐に行う必要があるためである。眼科に定期的に通院していても、何年も異常なしと言われ続けると中断してしまうケースも少なくない。通常、平均十年くらいして発症し、発症後の進行は早いので自己判断で中断しないよう話しておく必要がある。痛みを伴う筋委縮、運動障害が強い場合は脳神経内科、壊疽は創傷外来、白癬は皮膚科、神経因性膀胱、過活動性膀胱やEDは泌尿器、手根管症候群は整形外科と連携して診療を行うことも多い。歯周病も併発しやすく歯科医との連携も必要である。年に1回は受診することが勧められているが、時期を逃さないために、初診時に紹介したい。循環器や腎臓専門医との連携も重要である。

本日は日本医師会、日本臨床内科医会、東京都、東京都医師会、糖尿病協会、練馬区医師会などで糖尿病対策に関わってきた立場で医療連携の現状と課題について述べる。

MEMO

おかやまDMネットの 現在と未来

講師 四方 賢一

岡山大学病院 新医療研究開発センター 教授
岡山大学病院 糖尿病センター 副センター長



略歴

昭和60年 岡山大学医学部 卒業
平成4年 岡山大学大学院医学研究科 修了
平成4年 岡山大学医学部第三内科助手
平成9年 岡山大学医学部第三内科講師
平成9年 ハーバード大学医学部ジョスリン糖尿病センター客員准教授
平成16年 日本糖尿病協会岡山県支部常務理事
平成19年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学准教授
平成21年 岡山大学病院腎臓・糖尿病・内分泌内科診療科長
平成22年 岡山大学病院新医療研究開発センター教授
平成24年 岡山大学病院糖尿病センター副センター長

わが国の糖尿病患者数は約950万人であり、予備軍を含めると2000万人を超えると推計されていますが、岡山県では35万人以上が糖尿病または予備軍と考えられます。さらに、高齢者人口が多い岡山県北地域では、糖尿病患者の割合が多いにも関わらず、糖尿病専門医やスタッフが少ないという問題があります。従って、糖尿病と合併症を予防して健康増進につなげるためには、県内全域における糖尿病診療レベルの向上・均てん化と医療連携が必要となります。

岡山県では、糖尿病医療に関わる医師およびメディカルスタッフの資質向上と県民への普及・啓発を推進する目的で、平成24年度より「岡山県糖尿病等生活習慣病医療連携事業」をスタートさせました。この事業では、県内の糖尿病医療に関わる医療機関を機能別に総合管理(かかりつけ医)、専門治療、慢性合併症治療、急性増悪時治療の4つに分けて登録し、糖尿病医療連携ネットワーク(おかやまDMネット)を構築しています。県内全域で総合管理医認定のための研修会を開催して、現在までに約300の総合管理医療機関(かかりつけ医)が認定されています。

おかやまDMネットでは、①機関誌「おかやまDMネットジャーナル」の発刊、②逆紹介推進および二次検診への受診勧奨ツールである「糖尿病かかりつけ医ハンドブック」を作成し、ウェブサイト上に③糖尿病教育資材共有システム(SODET)、④糖尿病診療に関わる相談窓口「DMなんでも相談室」、⑤糖尿病に特化した情報サイト(DONATS)、⑥メールマガジンの配信とFaceBookを開設し、「糖尿病診療の支援」と「糖尿病医療情報の提供」に取り組んできました。さらに、平成26年度からは、診療所や調剤薬局も含めて糖尿病診療に精通したメディカルスタッフを養成する目的で「おかやま糖尿病サポーター」制度を発足させ、平成26年度で500名を認定、今年度も約600名を認定する予定です。おかやまDMネットでは、これらの取り組みにより、全県的な医療連携を推進したいと考えています。

このシンポジウムでは、おかやまDMネットの現況をご紹介しますとともに、今後の岡山県における糖尿病の医療連携の在り方について考えてみたいと思います。

MEMO

新見医師会 糖尿病医療連携の取り組み ～医療資源の少ない地域の取り組み～

講師 太田 隆正

新見医師会 会長
太田病院 理事長

略歴

昭和24年 3月18日 岡山県新見市生まれ
昭和50年 5月 岡山大学医学部 第二内科 入局
昭和54年10月 太田病院内科医長(帰郷)
昭和55年 8月 太田病院副院長
昭和62年 4月 新見医師会監事
平成17年 4月 新見医師会副会長
平成20年12月 医療法人緑隆会太田病院理事長
平成21年 4月 新見医師会会長

平成16年度に在宅医療支援システム研究会を立ち上げる。平成20年度からは地域ICT活用モデル事業に取り組み、新見あんしんねっとプロジェクトリーダーとして遠隔医療の実証実験を推進。平成24年度には、厚生労働省モデル事業、在宅医療連携拠点まんさくを立ち上げ、遠隔医療、在宅医療普及に現在も積極的に活動を続けている。



糖尿病の施策は県の取り組み「岡山県糖尿病等生活習慣病医療連携推進事業」で医療連携体制が確立され、さらに岡山県糖尿病対策専門部会「おかやまDMネット」事業で岡山県全体で医療現場で事業が展開されている。

新見地区は医療資源が少ない中での地域の問題点抽出および解決策検討を在宅医療、認知症など、行政・各種医療関係団体および医師会と早くから連携行ってきた。

糖尿病では行政による健診業務、住民生活指導は複数の団体ごとで行われていた。医療機関は診療所・病院で糖尿病診療は行われていたが地域で常勤専門医はいなかった。

今後の対応策として住民啓発活動では、各種健診による糖尿病予備軍および治療必要者の受診勧奨、各種団体研修会の調整。医師会としては専門医確保、診療所と病院の連携強化、糖尿病サポーター活用による医療・介護連携の推進に取り組む予定である。

MEMO

糖尿病医療連携とチーム医療 ～チームで取り組む糖尿病治療～

講師 中塔 辰明

岡山済生会総合病院
糖尿病センター センター長



略歴

平成2年3月 岡山大学医学部 卒業
平成2年4月 岡山大学医学部第一内科 入局
平成2年11月 倉敷中央病院内科
平成6年11月 岡山大学医学部第一内科
平成9年11月 岡山済生会総合病院内科
平成18年1月 同 糖尿病センター長
平成25年7月 岡山済生会県庁内診療所所長(兼任)
平成27年4月 岡山済生会総合病院 診療部長、糖尿病センター長

《資格等》 日本内科学会認定医・研修指導医・支部評議員、日本糖尿病学会専門医・指導医・評議員、日本下肢救済・足病学会評議員、糖尿病診療マスター(医学書院)編集委員、DMアンサンブル(日本糖尿病協会)編集委員、日本糖尿病学会「食品交換表」編集委員会委員

医療が高度になり、複雑化する中、「チーム医療」の重要性はますます高まっています。特に糖尿病診療においては、患者さんの生活に根ざした療養指導や支援が必要不可欠でありますので、「チーム医療」の重要性は高まる一方です。実際、我々糖尿病診療に関わる医療者は日々の診療の中で「チーム医療」の力を実感しており、チームのメンバーがそれぞれの強みを活かしながら患者さんを支えていくことで、患者さんに行動変容が現れることを実体験しています。しかしながら一方で、患者さんの行動を変えることがそれ程たやすいことではないことも我々は日々痛感しています。患者さんの行動を望ましい方向に変えていくことが糖尿病治療の重要な柱の一つであるとすれば、「行動変容」について考えることは極めて重要なアプローチと言えます。

いったい何が人の行動を変えるのでしょうか？ 患者さんの行動変容を支えるために我々はチームとしてどのように関わるべきなのでしょうか？ 本講演ではこれらの点について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

MEMO

真庭地域における 糖尿病療養指導の連携について

講師 押目 仁美

落合病院 看護師(糖尿病看護認定看護師)
日本糖尿病療養指導士
まにわDM療養指導の会 代表

略歴

- 平成 3 年 岡山県立落合高等学校 衛生看護科 卒業
- 平成 5 年 岡山県立落合高等学校 衛生看護科専攻科 卒業 看護師資格取得
医療法人社団井口会 総合病院落合病院勤務
- 平成 21 年 糖尿病療養指導士資格取得
- 平成 24 年 岡山県立大学認定看護師教育センター 糖尿病看護認定看護師教育課程 卒業
糖尿病看護認定看護師資格取得



真庭市は県北西部にあり、その面積は岡山県の約11.6%を占める県下で最も大きな地域の一つですが、医師数の減少、医師の高齢化や看護師不足に起因する診療所の減少、救急指定病院の減少など、さまざまな問題をかかえています。

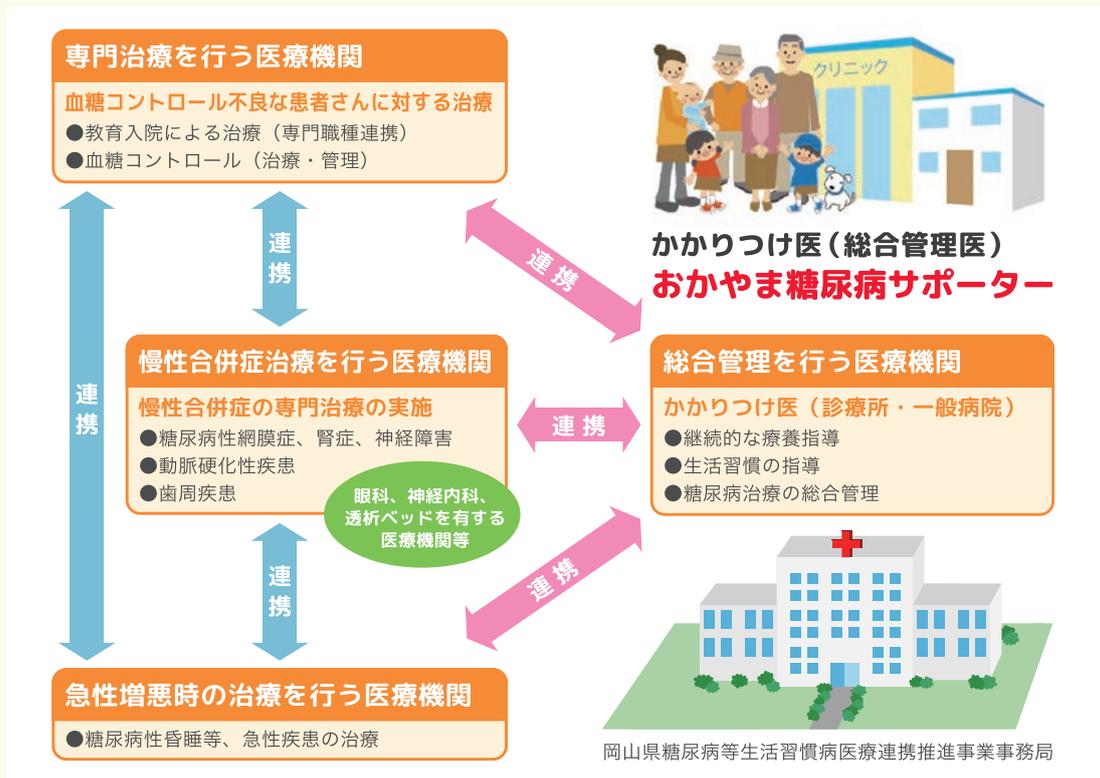
県北西部では、CDEJ(日本糖尿病療養指導士)の単位が取得できる研修会がほとんどなく、研修会を希望してもCDEJが施設に在籍していなければ、研修会の情報が入ってきません。また、「CDEJの資格を持っていないと研修会に参加できない」と思っている人が多いことを知り、「真庭で地域の医療スタッフが誰でも参加できるような研修会を開催し、糖尿病患者療養支援に関心を持ってもらえたら!」という思いから、真庭市内に勤務している看護師・管理栄養士などのメディカルスタッフ6名で、平成25年4月に「まにわDM療養指導の会」を立ち上げました。限られた人財を効率的・効果的に活用し協働できるよう、医療機関や職種の枠を超えた幅広い交流を通じて、真庭の糖尿病患者療養支援の輪を広げていくように活動しています。

MEMO

おかやまDMネットとは

おかやまDMネットは、岡山県で糖尿病診療に関わる医療機関と医療従事者による医療連携ネットワーク(岡山県糖尿病医療連携体制(ネットワーク))の愛称です。おかやまDMネットには「総合管理(かかりつけ医)」、「専門治療」、「慢性合併症の治療」、「急性増悪時の治療(救急)」の4つの機能を持つ医療機関が参加し、医師と、「おかやま糖尿病サポーター」の認定を受けたメディカルスタッフ(看護師、准看護師、保健師、助産師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士)が会員となり、糖尿病チーム医療を推進しています。

おかやまDMネットでは、医療連携の推進、会員への情報提供、研修会の開催や教育資料の提供などを行うことにより、岡山県の皆さまに“良質で効率的な糖尿病医療”を提供することを目指しています。



おかやま糖尿病サポーター

糖尿病の治療には、薬物療法とともに、食事や運動などの生活習慣に関わる必要があり、医師とともにメディカルスタッフが患者さんの療養を支援することが重要です。

岡山県では、かかりつけ医や調剤薬局など、より地域に密着した施設で働くメディカルスタッフに、糖尿病療養指導の知識と技術を身につけていただくことを目的として、平成26年度より「おかやま糖尿病サポーター」を認定する制度を開始しました。

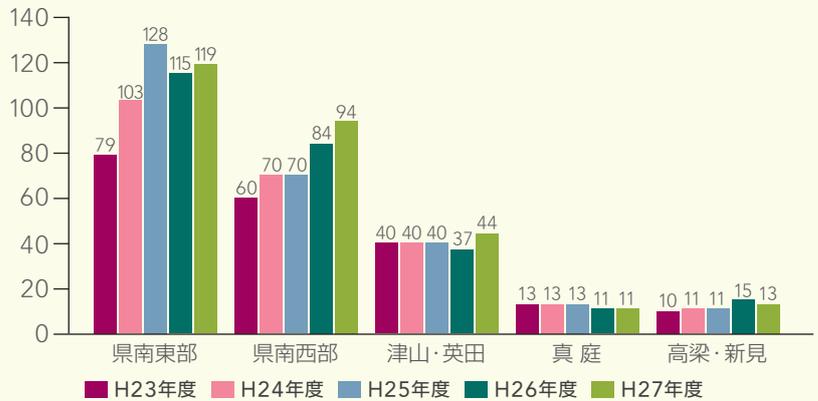
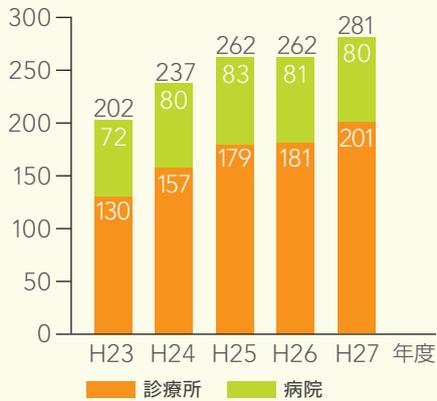
おかやま糖尿病サポーター、糖尿病看護認定看護師、日本糖尿病療養指導士が力を合わせて糖尿病患者さんの療養を支援することにより、より良い糖尿病医療の提供を目指しています。



おokayamaDMネット登録施設数の推移

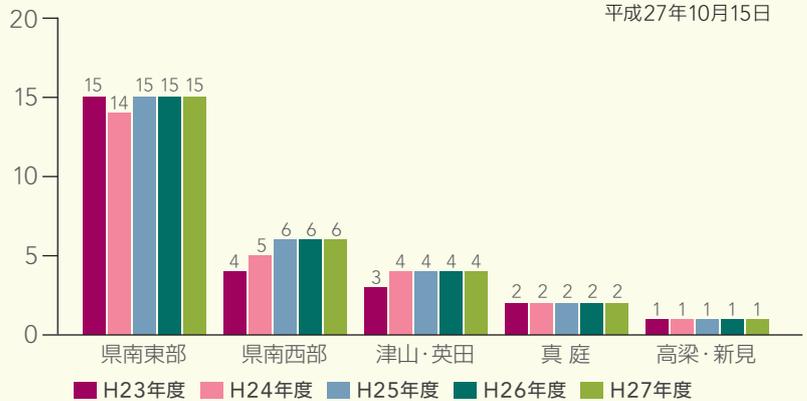
総合管理医療機関

平成27年10月15日



専門治療医療機関

平成27年10月15日



おokayamaDMネットの展開

情報発信力強化



DMネットジャーナル創刊
(紙媒体+電子媒体)



ウェブサイト大改訂

(ウェブサイト診療ツール化・Facebookとの連動)



情報伝達ルートの拡充
メーリングリストの活用
(県医師会+25郡市医師会に一斉配信)



かかりつけ医ハンドブック
(紙媒体+電子媒体)



DM新着トピックス
“DONATS”開設



糖尿病教育資料共有システム
“SODET”運用開始



おokayama糖尿病サポーター制度発足
(医療過疎地への対応)



“DMなんでも相談室”開設

登録施設のメリットの明確化

情報過疎の解消・人的資源の拡充、人的サポートの強化

ウェブサイトを通じた情報配信

<https://www.ouhp-dmcenter.jp/project/dm/>



① FaceBook

ぜひご覧ください！

② DM新着トピックス DONATS

糖尿病に特化した新着トピックスや糖尿病薬の最新情報などをお届けしています！

③ 糖尿病教育資料共有システム(SODET)

SODETには、糖尿病専門治療医療機関の教育資料、岡山県糖尿病等生活習慣病医療連携推進事業の研修会テキスト、インスリンポンプ関連資料、1型・2型糖尿病指導箋、血糖測定器関連指導箋等を掲載しており糖尿病患者の外來・入院診療のほぼすべてのシーンに対応できるコンテンツとなっております！

※SODETログイン時にID・パスワードが必要です。現在、アクセス権限をおかやまDMネットの会員に限定しております。

④ DMなんでも相談室

糖尿病診療に携わるすべての職種の医療従事者から相談を受け付ける仮想カフェです。お気軽にご質問をお寄せください！

⑤ おかやまDMネット参加医療機関

おかやまDMネットに参加している医療機関の詳細がこちらからご覧いただけます！

刊行物の紹介

おかやまDMネットジャーナル(年3回発行)

県内の医療機関に配布。地域での糖尿病対策の取り組みや最新情報等を掲載しています。



糖尿病かかりつけ医ハンドブック

糖尿病総合管理医療機関(かかりつけ医)を掲載した冊子です。県内の医療連携の推進と健診受診支援・受療支援を目的とし、おかやまDMネット参加医療機関、岡山県都市医師会、関係協会団体、県内の保健所・支所、市町村、保険者に送付し、患者紹介や保健指導、受療勧奨にご活用いただいております。





岡山県糖尿病医療連携シンポジウム

プログラム

13:00~13:15

開会挨拶

糸島 達也 | 岡山県医師会 副会長
兼信 定夫 | 岡山県保健福祉部健康推進課 課長

13:15~14:05

特別講演

座長 岡崎 悟 | 心臓病センター榊原病院 院長

糖尿病治療の課題と展望 ～治す治療への第一歩～

講師 植木 浩二郎 | 東京大学大学院医学系研究科 分子糖尿病科学講座
特任教授

14:05~14:35

医療連携

座長 難波 義夫 | 金光病院 院長

糖尿病医療連携の現状と課題

講師 菅原 正弘 | 東京内科医会 会長 / 菅原医院 院長

休憩 (10分)

14:45~16:15

講演

座長 松岡 孝 | 倉敷中央病院 糖尿病内科 主任部長
肥田 和之 | 国立病院機構 岡山医療センター 糖尿病・代謝内科 医長

14:45~

おかやまDMネットの現在と未来

講師 四方 賢一 | 岡山大学病院 新医療研究開発センター 教授
岡山大学病院 糖尿病センター 副センター長

15:15~

新見医師会 糖尿病医療連携の取り組み

講師 太田 隆正 | 新見医師会 会長 / 太田病院 理事長

15:35~

糖尿病医療連携とチーム医療 ～チームで取り組む糖尿病治療～

講師 中塔 辰明 | 岡山済生会総合病院 糖尿病センター センター長

15:55~

真庭地域における 糖尿病療養指導の連携について

講師 押目 仁美 | 落合病院 看護師(糖尿病看護認定看護師)
日本糖尿病療養指導士 / まにわDM療養指導の会 代表

16:15~16:20

閉会挨拶

田中 茂人 | 岡山県医師会 理事